

吉野川に関する情報を幅広く発信する広報誌



# Ourよしのがわ

Vol.70  
2026年1月号

連載

- ・ここがええですよ！吉野川～流域にこんなんでないで～
- ・吉野川歴史探訪：吉野川第一期改修百周年に向けて⑭  
—幕末に治水・利水論を唱えた庄野太郎(前編)—
- ・吉野川と共に～流域治水を担う地域防災～：松茂町・北島町

## 事務所だより

- ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況（令和7年11月末時点）
- ・チルトローテータ（新技術建設機械）の現場見学会に参加しました
- ・吉野川津波対策工事完成式典～直轄10樋門～を開催しました
- ・令和7年度 第一回 吉野川学識者会議を開催しました
- ・つるぎ町防災フェアに出展しました！/地歴学会の先生方と吉野川の歴史に触れる1日
- ・「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」関係者インタビュー

## イベント情報

- ・「吉野川上流の歴史を学ぼう！」フィールド講座を実施します



Ourよしのがわ  
ウェブページ

大瀧の滝  
(高知県の町)



## 案内図

### 【連載】 P1~

- ・ここがええでよ！吉野川～流域にこんなんあるでないで～：  
三好市井川町辻 辻町ガイドの会の皆さん (案内図②)
- ・吉野川歴史探訪：吉野川第一期改修百周年に向けて⑭  
—幕末に治水・利水論を唱えた庄野太郎 (前編) —
- ・吉野川と共に～流域治水を担う地域防災～：松茂町・北島町

### 【事務所だより】 P13 ~

- ・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況 (令和7年11月末時点)
- ・チルトローテータ (新技術建設機械) の現場見学会に参加しました
- ・吉野川津波対策工事完成式典～直轄10樋門～を開催しました (案内図③)
- ・令和7年度 第一回 吉野川学識者会議を開催しました
- ・つるぎ町防災フェアに出展しました！/地歴学会の先生方と吉野川の歴史に触れる1日
- ・「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」関係者インタビュー

### 【イベント情報】 P26

- ・「吉野川上流の歴史を学ぼう！」フィールド講座を実施します (案内図④)

### 【遊 VIVA! 吉野川】 P27

- ・「ここがええでよ！吉野川」取材こぼれ話：辻町ガイドと茜染め (案内図②)

### 【ミニ情報発信室】 P28

### 【吉野川Diary・編集後記】 P30



表紙の写真：  
大瀧の滝 (高知県の町) (案内図①)





# ここがええだよ！吉野川

～流域にこんなんでないで～

四国の面積の5分の1を占める吉野川流域。そこに息づく人々の暮らし、産業、歴史、文化は、雄大な吉野川の流れと深く関わりながら歴史を刻んできました。このコーナーでは、流域に関わる人々・出来事、旬の話題などを取材して、吉野川流域の「ええところ」を発掘・発信していきます。



## 『阿波煙草の道』を辿る、三好市井川町辻のまち歩き

三好市井川町辻は、幕末から明治にかけて阿波刻み煙草と水運によって栄えました。当時はまだ陸上交通が発達しておらず、吉野川を重要な交通路として、多くの平田船や渡し船が行き来することで、物資や人の移動を支えていました。井川町辻には「辻の浜」、「辻の渡し場」と呼ばれる船着き場が設けられ、その周辺は宿屋や料亭などが建ち並ぶ宿場町として賑わっていました。この地に三好市の山間部で生産された葉たばこが運び込まれ、阿波刻み煙草として製品化され、平田船で吉野川を下って市街地や大阪まで運ばれていました。

この阿波刻み煙草と水運で栄えた井川町辻を、『阿波煙草の道をたどる』をテーマに案内してくれるのが辻町ガイドの会の皆さんです。今回は、四国大学大学院 経営情報学研究所2年生のBHATT DHRUMIL NILESHさんと一緒にツアーコースを巡りました。

最初に訪れたのは、1877年（明治10年）に建てられ、国の登録有形文化財に指定されている旧石川邸です。外からは3階建てに見える建物ですが、中に入ると4階構造になっているという、独特の造りに驚かされます。1階と2階は刻みたばこ製造所、3階が住居と接客用の座敷、そして4階は商談室や遊戯室として使用されていたそうです。約150年も前に4階建ての建物を建造する財力があつたことは、かつての阿波刻み煙草産業の隆盛と地域の繁栄を物語っています。



美濃田大橋のたもととの辻の渡し場跡にて。バットさん（中央）と辻町ガイドの会（左から）多田 憲二さん、よしおか ひろえさん、おかもと かよこさん、まえがわ しゆんこさん、吉岡 弘恵さん、岡本 佳代子さん、前川 順子さん。



煙草の葉や種を笑顔で見せながら説明してくれたメンバーの土井 清子さん（中央）と田岡 啓子さん（右）。



1877年に建てられた旧石川邸。案内してくれたのはうちだ たえこさん。4階部分に火灯窓（華頭窓）といわれる建築様式が見られます。

阿波刻み煙草の発展について紹介された石碑や町並みを見学した後は、132年前に建てられた古民家『辻のいろり』でお茶の飲み比べを体験しました。飲み比べるお茶は一文茶いちぶんちやといい、町内を流れる井内谷川の上流、井川町井内の標高450mの傾斜地で栽培されています。農薬や除草剤を使用しない、こだわりの農法で作られており、明治神宮にも奉獻されました。江戸～昭和初期までは刻み煙草の材料である葉たばこの生産地でしたが、現在はお茶や柚子が主要な農産物となっています。谷を隔てた東西の山の斜面で栽培されたお茶は、同じ標高や土壌でも日照条件の違いで異なる味わいに仕上がるそうです。取材チームで飲んだ感想を話して、和やかな時間となりました。

『辻のいろり』を含む、地区内にあるいくつかの古民家の2階外壁は、墨で黒く塗られています。これは、第二次世界大戦中に白壁が空襲の標的とならないためのカモフラージュだそう。戦時中の人々の不安や生き抜くための術すべを静かに物語っています。

今回の取材では、歩いて巡るからこそ気づく景色や、先人の暮らしや歴史を想起できる場所との出会いがあり、地域と吉野川との結びつきも改めて実感できました。ガイドのみなさんが交代で案内してくださったおかげで、とても賑やかな一日となりました。辻町ガイドの会の申込みは3日前までに（一社）三好市観光協会(0883-76-0877)に連絡すれば予約できます。

また、ガイドのみなさんから「楽しいから是非参加を！」と勧められたのが3月29日に開催される『JR辻駅～美濃田の淵ツアー』です。辻町ガイドの会と三好ジオガイドの会が地域を越えて協力し実現したツアーです。年2回開催で、辻の町並みと東みよし町的美濃田の淵等を巡ります。

ツアーについてのウェブサイトはこちら！→



朝日が当たる西と、夕日の当たる東で飲み比べます。東側がまろやか、西側は渋みがあり濃いと感じる方が多いとのことですので、是非現地で飲み比べて確かめてみてください。



国の登録有形文化財に指定されている古民家『辻のいろり』。三好市の日本 茜あかねを使った茜染め体験ができます。（茜染め体験の詳細は「吉野川Diary」参照）。



辻の四ツ辻。この道をまっすぐ進めば吉野川があり、辻の渡し場跡に到着します。このあたりが当時の川の玄関口で、宿屋や飲食店、散髪屋など多くの店が建ち並んでいました。阿波刻み煙草の全盛期には多くの人やモノの往来があったところです。



バット デュル  
ミル ニレシュ  
さん

### 取材後の感想

●井川町辻では、昔のたばこの葉づくりや歴史ある場所を巡り、地域の歩みを知ることができました。お茶の試飲では、同じお茶でも東と西の山で味が異なることに驚き、特に東のお茶の爽やかさが印象的でした。また、茜染め体験が心に残りました。自分の手で染め上げた色がサフラン色に似ていて、母国インドを思い出し、とても嬉しかったです。茜の杜のみなさんが丁寧に教えてくださり、「また来てね」と声をかけてくれた温かさにも感動しました。

## 吉野川第一期改修百周年に向けて⑭

～幕末に治水・利水論を唱えた 庄野太郎（前編）～  
株式会社フジタ建設コンサルタント 高田 恵二

## はじめに

前号・前々号の連載で金原 祐樹氏により、幕末〔慶応二年（1868）〕の大水害「寅の大水」が紹介されました。今回は、その「寅の大水」を体験し、自らの治水論「水利に関する上言」を藩に提言した庄野太郎を取り上げてみたいと思います。また、「寅の大水」の前年〔慶応元年（1867）〕には、吉野川平野の利水に対する提案書「芳川水利論」を著し、これも藩に提出しました。これらの資料を紹介していきたいと思います。

さて、庄野太郎（しょうの たろう）とは、文献に「文化10年（1813）～慶応3年（1867）10月29日 享年54歳、江戸時代後期の徳島藩（現在の徳島県）出身の治水論者・儒学者、徳島県名西郡高川原村（現・石井町）で生まれ、江戸の昌平黌（しょうへいこう）で学問を修めた後、地元に戻り私塾を開き、地域の教育や治水事業に尽力した」と紹介されています。昌平黌とは、昌平坂学問所（しょうへいざかがくもんじょ）、1790年（寛政2年）、神田湯島に設立された江戸幕府直轄の最高学府（教学機関・施設）で、明治維新後、昌平学校として存続後、1871年に廃止され、その教育・研究の系譜は、開成所や医学所と共に東京大学の形成に繋がりました。



図 1 庄野太郎の墓石

「芳川水利論」の中においても、「太郎、往年東都に遊ぶ事五年」と江戸で5年滞在していたことを記しています。

## 1. 水利二関スル上言（庄野家文書）

前回の金原氏の執筆に、慶応二年（1866）に庄野太郎が藩に提出した「水利二関スル上言」の冒頭部分を少し触れられていましたが、今回は、この「水利二関スル上言」の内容を見ていく中で見えてくる庄野太郎の治水に対する知識的な部分を取り上げてみたいと思います。

なお、冒頭部分〔急務〕の解説文が必要な場合は、前号（Vol.69）で金原氏のご投稿をご参照ください。

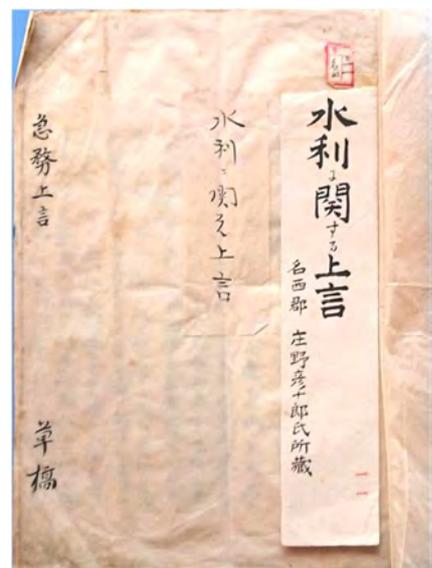


図 2 「水利二関スル上言」表紙

〔意識〕

急務

当年〔慶応二年（1688）〕八月七日・八日、および同月十五日の二度の洪水による人馬の溺死、資財の流失、五穀の水腐り、土壌の流失と荒廃、堤防の決壊等は、数え切れないほどである。真に重大なる被害であるため、富有のものに命じて他国産の米麦を輸入させ、土木工事を起こして、被災者に恵み施すことは、在位君主の当然の行為として既に〔他の人が〕建白されたようだ。

ひそかに他人の言に附和雷同することを遠慮し、また身分不相応の僭越の罪と恐れる。このため敢えて申し上げなかった。しかし心中で思考し、目に触れることや観察したことを少しも吐露しなかった。しかしただ黙視するばかりも不忠の罪になろうかと恐れる。このために、少し2・3の方策を建白いたします。

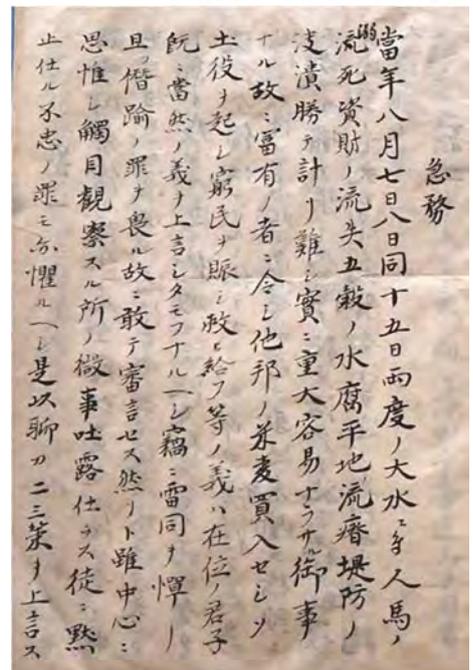


図 3 「水利二関スル上言」冒頭

「水利二関スル上言」の冒頭部分（図 3）に“急務”として、「寅の大水」の被災状況について触れています。この文末に2・3の方策を建白しますとしています。それ以降に3つ（第1～第3）の詳細な治水に対する提案が記されています。これよりその提案内容について確認していきたいと思います。

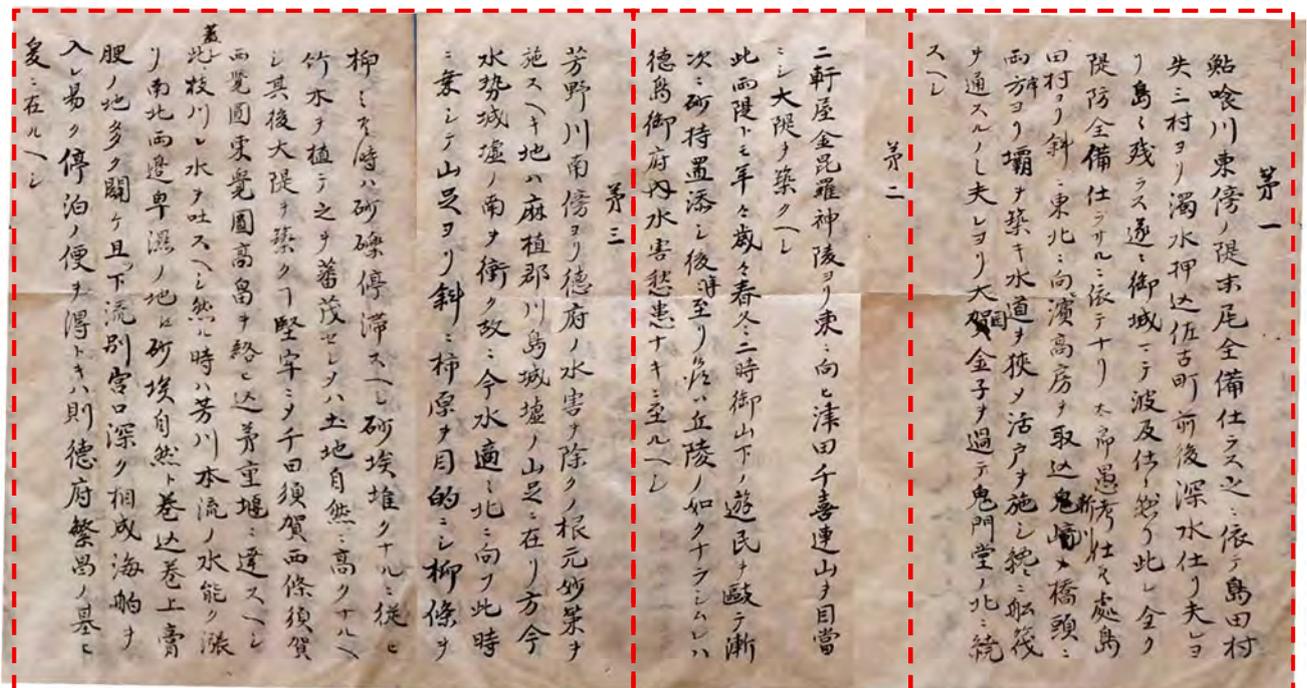


図 4 「水利二関スル上言」3つの提案内容部分

〔解説文〕

第一

鮎喰川東傍ノ堤、末尾全備仕ラス、之二依テ島田村・矢三村ヨリ濁水押込、佐古町前後深水仕

り、夫レヨリ島々残ラス、逐ニ御城マテ波及仕リ懸リ、此レ全ク堤防全備仕ラサルニ依テナリ、太郎愚考仕候処、島田村ヨリ斜ニ東北ニ向ヒ濱高房ヲ取込、新川橋頭ニ両岸ヨリ壩ヲ築キ水道ヲ狭メ浩戸ヲ施シ纔ニ船筏ヲ通スルノミ、夫レヨリ大岡金子ヲ過テ鬼門堂ノ北ニ繞スヘシ

### 第二

二軒屋金毘羅神陵ヨリ東ニ向ヒ、津田千喜連山ヲ目当ニシ大堤ヲ築クヘシ。

此両提トモ年々歳々春冬ニ時、御山下ノ遊民ヲ毆テ漸次ニ砂持置添シ、後年ニ至リ候得ハ丘陵ノ如クナラシムレハ、徳島御府内水害愁患ナキニ至ルヘシ。

### 第三

芳野川南傍ヨリ徳府ノ水害を除クノ根元妙策ヲ施スヘキ地ハ、麻植郡川島城墟ノ山足ニ在リ、方今水勢城墟ノ南ヲ衝ク、故ニ今水道ハ北ニ向フ、此時ニ乗シテ山足ヨリ斜ニ柿原ヲ目的ニシ柳条ヲ指之候時、砂礫停滞スヘシ。砂埃堆クナルニ從ヒ竹木ヲ植テ之ヲ蕃茂セシメハ、土地自然ニクナルヘシ、其後大堤ヲ築ク事堅牢ニシテ、千田須賀・西条須賀・西覚円・東覚円・高畠ヲ絡ヒ込、第重（十）堰ニ達スヘシ、蓋シ此ノ枝川ノ水ヲ吐カスヘシ、然ル時ハ芳川本流ノ水能ク漲リ、南北両辺卑湿ノ地工砂埃自然ト巻込巻上、膏腴ノ地多ク闢ケ且ツ下流別宮口深く相成、海舶ヲ人レ易ク停泊ノ便ヲ得トキハ、則徳府繁昌ノ基ヒ爰ニ在ルヘシ

## 2. 提案その1

まず第1の提案内容を見ていきましょう。次に「第1」の意識を示します。

### 第1

鮎喰川の東側の末端は、堤防が完備していない。このために島田村、矢三村より泥水が城下に押し込み、佐古町の周辺は深水となる。それから他の島々は残らず浸水する。遂にお城まで浸水が波及する様子である。これは全く堤防が完備していないからである。私の提案するところは、島田村から濱高房を取り込み、新川橋辺を両岸より堤を築いて水道を狭め、閘門を設置してわずかに船筏を通すだけにし、〔水路は〕ここから大岡金子を過ぎて鬼門堂の北へ廻らすべきである。

図5は、「寅の大水」の3年前に吉野川下流付近が描かれた絵図「徳島及周辺絵図（沖洲周辺・蔵本周辺合成）徳島大学図書館蔵」〔文久3年（1863）〕です。この絵図により提案第1に記載された内容が確認することができます。鮎喰川の右岸堤防（黄線）が島田村の西端で切れており、それより東側（島田村・矢三村の北側には）堤防が完備していないことが確認でき、そこから洪水が流れ出てくるのがわかります。

また図6は、現代の測量技術による3次元点群データを用いて作成した標高段彩図です。標高毎に色分けして土地の高低が確認できます。（青色が濃いほど標高が低い）

これをみると、島田村・矢三村あたりから浸水すると佐古町周辺が青の色が濃く、深水になることが確認できます。佐古町以東もお城周辺にかけても青の色が濃くなっている様子が確認でき、佐古町周辺の深水とお城まで浸水が波及していく様子が浮かんできます。

現在のような測量技術がなくても、庄野太郎が地形を把握していた事がよくわかります。



図 5 徳島及周边絵図（沖洲周辺・蔵本周辺合成）（徳島大学図書館蔵）

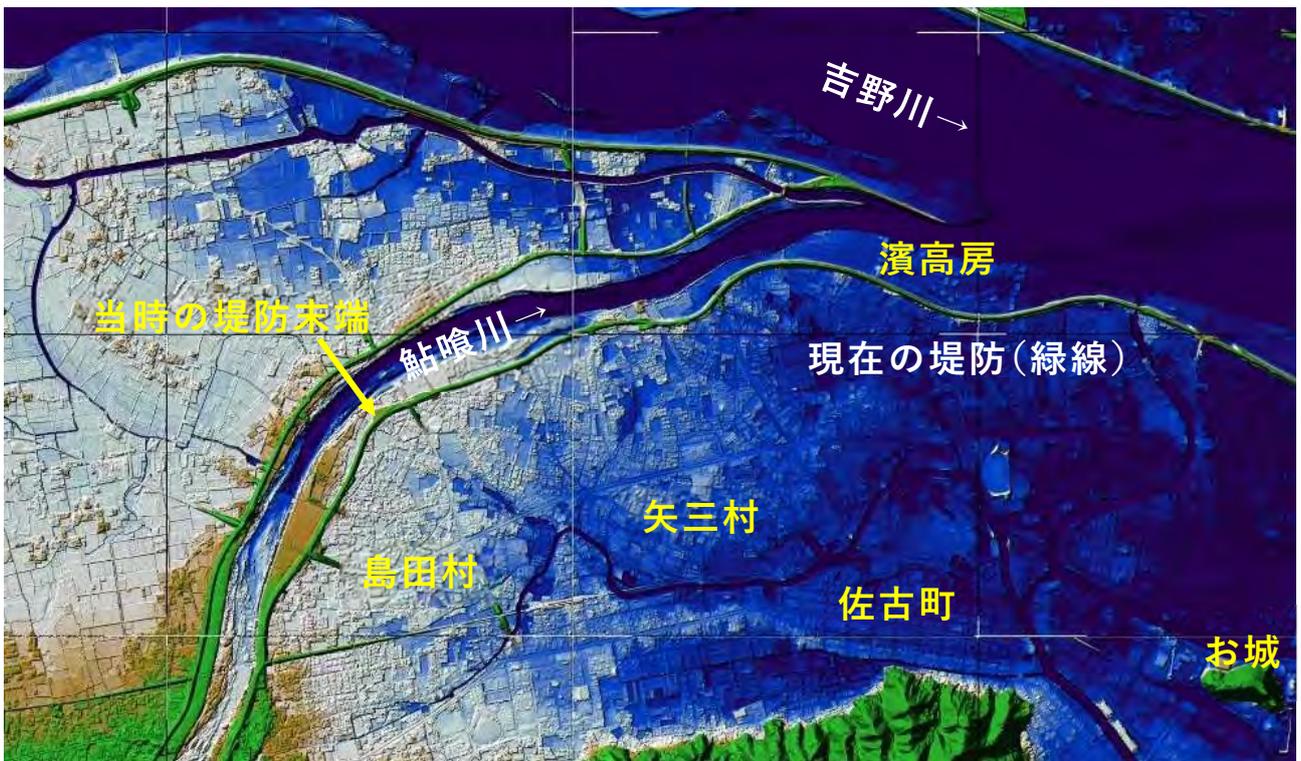


図 6 標高段彩図

堤防計画については、島田村から大岡金子を過ぎて鬼門堂の北へ廻らすとありますが、現在できている堤防（緑線）は、濱高房だけが堤防の外側になっていますが、おおよそ庄野太郎が言った内容で整備されていることが確認できます。また、新川橋辺を両岸より堤を築いて

船筏を通すだけの閘門を設置するといった内容についても、現在ここには新町川樋門が存在し、吉野川第一期改修工事において「平常時の船筏の航路を確保するために、別宮川の新堤と派川との交差箇所に樋門を新設する」といった内容とも一致しています。

最後に「大岡金子」や「鬼門堂」とありますが、現在の地名辞典では確認できません。しかし、図7「御城下絵図」〔享保12年（1727）〕（徳島大学図書館蔵）に「大岡」の地名が見え、図8「徳島及周边絵図」（徳島大学図書館蔵）に「兼子（金子）」の地名が見えます。図9「板野郡分間郡図」〔文化12年（1815）〕（三木文庫蔵）には「大岡別宮」が見えます。また、「阿波志」〔文化12年（1815）〕においても、興源寺の所在を「大岡に在り…」、江西寺（現在は無い）も「大岡に在り…」山王権現（現在の日枝神社）も「大岡に在り…」と記載され、下助任村周辺を指すことがわかります。

残念ながら鬼門堂については不明ですが、お城から鬼門（北東）方向に位置する大岡別宮の「地蔵寺」・「川裾社」・「弁財天」あたりを指しているのではないかと考えられます。



図7 御城下絵図（徳島大学図書館蔵）



図8 徳島及周边絵図（下助任付近）



図9 板野郡分間郡図（三木文庫蔵）

### 3. 提案その2

続いて、第2の提案内容を見ていきましょう。次に「第2」の意識を示します。

#### 第2

二軒屋金比羅神社より、東に向い津田千喜連山を目指して大堤防を築くべきである。両堤防ともに毎年春秋の二期に城下の民衆を使って砂を持って行かせられれば、後には丘陵のような堤防にすれば、徳島城下は水害の心配はなくなるだろう。

これは二軒屋金比羅神社から東に津田千喜連山に向かって大堤防を築くという構想で、これができるれば徳島城下の水害の心配がなくなるというのですが、これは今も存在しません。

ここで、「二軒屋金比羅神社」は二軒屋の眉山山裾の県道沿いに現在も存在しますが、「津田千喜連山」は、「図10 明治32年製版地形図（小松島浦）」の“断山”、昭和初期の地形図（徳島）では“千切山”など、過去の地形図でその名を見ることができます。また「阿波志」〔文化12年（1815）〕に「断山 新濱に在り…」とも記載されています。

近年、徳島駅周辺（旧徳島城下）に水害はあまり聞くことはありませんが、Vol.68金原氏執筆の橋本為太郎の書簡で「西船場は一円床上1～2尺（30cm～60cm）、東船場も同様、新町・魚の棚も同様、織町 床上2～3尺（60cm～90cm）、大道筋は4尺（120cm）、定普請町は床上5尺（150cm）、東富田も同様、二軒屋ではかなり死人が出て…」というように「寅の大水」では水害により大惨事となっています。

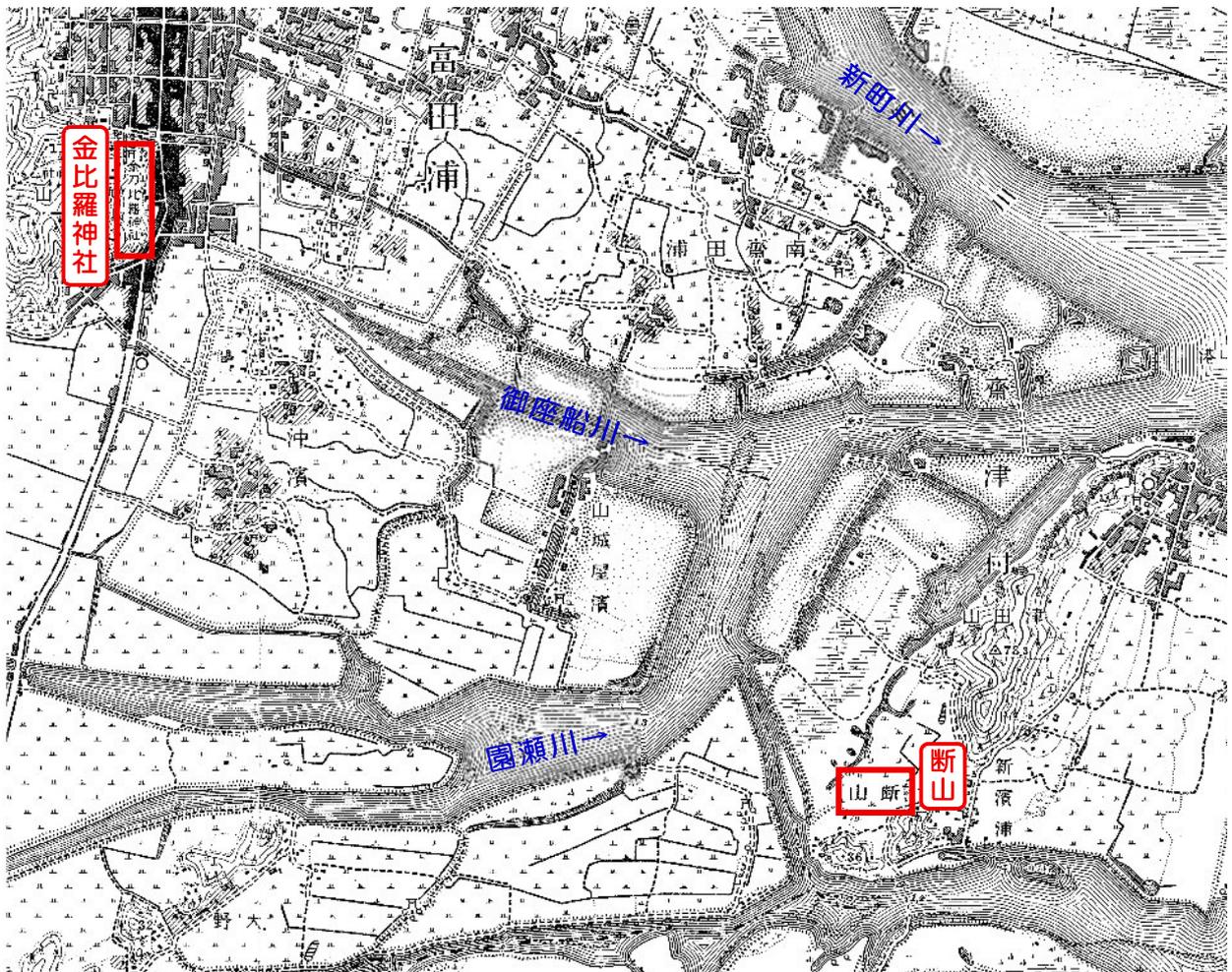


図 10 明治 32 年製版地形図（小松島浦）

また、明治 25 年（1892）7 月 22 日、寅の大水に匹敵する大水害が発生しました。この時の水害の状況の写真（図 11、12）が「土木学会附属土木図書館」に残されています。写真の題名から図 11 は御座船川北側の富田大麻彦神社（現明神町）が浸水している状況、図 12 は、大麻彦神社北西（現在の富田橋 5 丁目（大正頃地図に堀ブチの地名有り））付近の民家が倒壊した状況と推測されます。この水害は、高潮を伴った洪水で慶応二年以来の大洪水なり「海嘯全市を侵す」と、翌々日 7 月 24 日の徳島日日新聞に取り上げられています。



図 11 トミタ大麻彦神社境内ニテ施行



図 12 富田ホリブチ南側

（図 11、図 12 とともに土木学会附属図書館蔵）

「図 13 標高段彩図」で詳しい地形が確認できます。新町川と園瀬川の間地域が城下よりも更に土地が低いことが確認できます。富田大麻彦神社周辺は標高約 0.7m と通常の満潮よりも低い高さです。ひとたび高潮が来襲すれば周辺は当然深水になることがわかります。

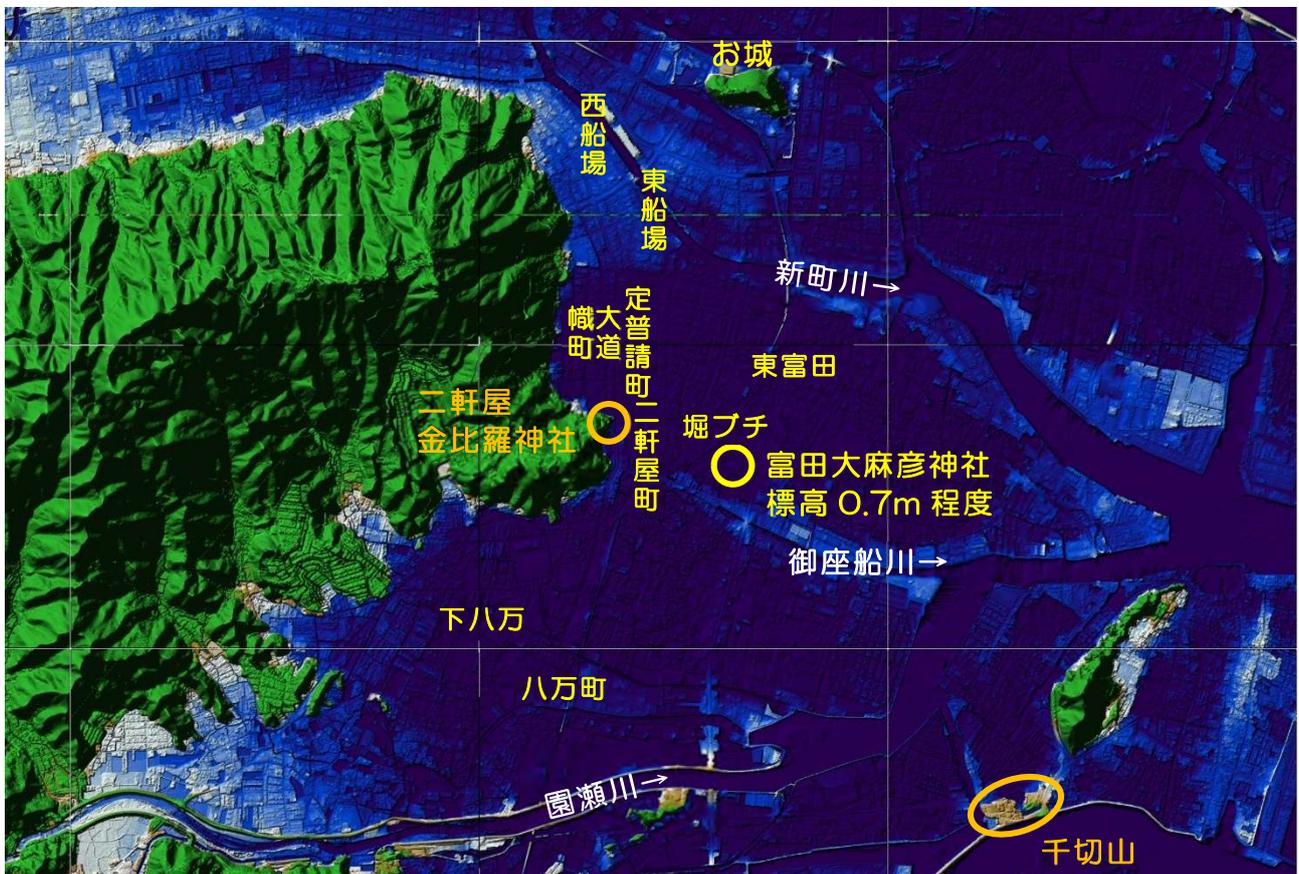


図 13 標高段彩図

このように、二軒屋金比羅神社から千喜連山に向かう大堤防の構想も庄野太郎が地形（土地の高さなど）を熟知して提案されたものだということがよくわかります。

### むすびにかえて

提案第1及び提案第2の内容は、庄野太郎が城下を洪水から防ぐために記したものです。

「図14 徳島及周边絵図」に提案第1と提案第2の堤防の位置を図化してみました。

提案第2の内容は現在も行われておりませんが、提案第1の鮎喰川から下流の堤防は、今から約100年前に竣工した吉野川第一期改修工事で築造された堤防や新町川樋門におおよそ一致することが確認できたと思います。庄野太郎は今から約160年前すでに徳島城下を洪水から防ぐために、現在の吉野川の堤防と同様の具体的な方策を提案していたのです。

今回、庄野太郎の徳島城下の治水論を紹介させていただきました。次号では残りの治水論や利水論について見ていきたいと思ひます。次号も続けてご覧いただければ幸いです。



図14 徳島及周边絵図（沖洲周边・蔵本周边合成）（徳島大学図書館蔵）

## 流域治水の取組 松茂町

### 【第5回】 防災から復興まで みんなで備える町づくり



吉野川の流域関係者に水災害等に対する防災・減災への思いを伺い、取組を紹介する「吉野川と共に～流域治水を担う地域防災～」。第5回は、松茂町の危機管理課、北島町の危機情報管理課と建設課にお伺いし、水災害に対する考え方や力を入れている取組について取材しました。

松茂町の地形特性と水害の現状や特徴について、危機管理課の課長 山口 高史さんと同課係長の内八重 智史さんにお話を伺いました。

松茂町は海岸部に位置しており、北は旧吉野川、南は今切川と、海と川の2つの水域に囲まれた場所に位置しています。多くの土地が海拔0メートル地帯となっており、町内に高台もないことから、ひとたび水害が起こると町内全域が浸水してしまいます。ハザードマップでは洪水、高潮、津波のいずれにおいても、全域に浸水リスクがあることが分かります。

松茂町における防災に関する取組について教えていただきました。

水害リスクが高い町であることから、昔から水害対策を講じてきました。町内には排水機場など計12箇所の排水ポンプを整備しており、大雨時に水路を流れる水を川へ排水し、水害を防止・軽減しています。昔は水路から道路に水が溢れ、水が引いた後にボラが路上に打ち上げられていることもありましたが、排水ポンプが整備されてからは、多少の雨では浸水しなくなりました。

また、更なる水害対策として、約10年前から農業用水路の事前放流を実施しています。一般に、水害が発生しやすい夏季には農業用水の需要が高く、用水路には常にたくさんの水が流れています。この水を台風接近や大雨予報時に抜いておくことで、水路からの溢水を防止・軽減する取り組みです。町内には幅または深さが60cm以上の水路が約120km、毛細血管のように広がっています。これらの



備蓄品として新導入したトイレカー前にて  
(左：山口さん、右：内八重さん)

水路を対象に事前放流を行っており、町内の浸水リスクを大きく低減しています。

その他の取り組みとしては、住民の皆様へ防災について考えていただく機会を作るため、毎年6月頃に防災フェスティバルを開催しています。消防車やパトカーなど災害時に活躍する車両の展示や起震車による地震体験など、さまざまな体験型イベントを通じて防災について学ぶことができます。なるべく多くの方に参加いただけるよう、毎年試行錯誤を繰り返しています。



手前：大雨予報時に事前放流が行われる大きな水路  
奥：防災イベント等が行われる松茂町の交流拠点施設

また、総合防災訓練を毎年10月に実施しています。地元の自主防災会のみなさまに食料係、物資係、設営係など役割を分担していただき、津波避難訓練や避難所設営訓練を行っています。今年から自主防災会以外の参加者向けにテント設営などの体験プログラムを新設し、飛び入り参加もできるようにしています。防災訓練に参加されたことのない方にも是非ご来場いただきたいです。

松茂町で特に力を入れて実践している、災害への備えについて教えていただきました

松茂町では、大規模な災害が起こった後でも1ヵ月は自力で生き抜く力を持つことを目標に、備蓄品の充実に力をいれています。特に、

避難中の水とトイレの確保が重要と考えており、貯水槽や水道管の耐震化、避難所となる学校等のトイレ整備を行っています。移動式のものでは、水循環式シャワー2基に加え、トイレカー2台を新たに導入しました。

また、各ご家庭での備えもしっかり行っていただくために、「みんなで備える減災対策事業補助金」制度を設けています。長期保存水やポータブル蓄電池といった災害時に持ち出せるものや、家具転倒防止グッズなどが対象となっており、町全体で災害に備えていくことを推進しています。

今後は事前復興計画の作成にも取り組んでいきたいと思っており、災害を受けても自力復興できる町づくりを進めてまいります。

## 松茂町長メッセージ



松茂町長 富士 雅章

松茂町は、海と川に囲まれた「海拔0メートル地帯の町」です。北に旧吉野川、南に今切川、そして紀伊水道に面しているため、洪水や高潮、津波などあらゆる水害のリスクを抱えています。過去より「水と闘う町」として、様々なハード整備と工夫を行ってきました。

現在は、「自助」、「共助」、「公助」により災害を乗り越えるという考えが一般的になっています。松茂町では、それぞれについて強化していくために、毎年イベントや訓練を開催しています。まずは防災に興味を持ってもらうため、毎年6月に一般住民向けに災害時に活躍する車両の展示など、楽しみながら防災が学べる防災フェスティバルを開催しています。また10月には自主防災会を中心に大規模災害を想定しての避難訓練や住民自らの手で避難所を開設する総合防災訓練を実施しています。そして2月には、町職員を対象に発災時における対応力の向上を図るため、図上訓練を実施しています。

松茂町が現在、力を入れているのが「備蓄」です。食料、水は当然として、トイレの確保を重点的に進めています。今年度はトイレカーを2台導入しました。避難所生活における快適なトイレの提供は重要であり、災害関連死の防止に繋がると考えています。

冒頭でも述べましたとおり、水害と隣り合わせの町です。災害に対する松茂町の取り組みについて町民の皆さまに今一度確認していただき、一緒に備えを力に変え、安心して暮らせる町を未来に繋いでいきたいと考えています。



松茂町の災害や防災に関する情報は  
松茂町公式ウェブサイトでご確認いただけます👉



📧松茂町のweb版ハザードマップなどの情報

## 北島町 地域協同で進める水害対策と体験重視の防災訓練



北島町の水害の現状や特徴について、危機情報管理課の課長 片岡 学さんと同課主事の佐藤 俊作さん、建設課の課長補佐 松浦 弘典さん、同課主査の佐藤 真也さんにお話を伺いました。

北島町の水害は、主に内水氾濫によるものです。国の堤防整備により外水氾濫リスクは低減しているものの、低平地が広がる地形のため、旧吉野川の水位上昇時には逆流防止のため樋門を閉める必要があります、大雨時にはポンプでの排水が不可欠となります。また、降雨前の水路の事前放流も実施しており、排水ポンプ場の適切な運用が特に重要になります。

地域と協力して内水氾濫に備える取組について教えていただきました。

水路の事前放流を実施するための排水ポンプ場の運用は、地域の方々の協力なくしては成り立ちません。町内には大規模な排水機場が4か所あり、そのうち3か所は農業従事者に管理人を務めていただいています。事前放流を実施する場合、気温や湿度の高い日に数日間ポンプ場に滞在することもあります。そこで北島町では、少しでも安心して管理人を引き受けていただけるよう、排水ポンプ場の操



排水機場の室内にて談話する管理人の方々



北島町庁舎前にて（左から危機情報管理課 佐藤さん、片岡さん、建設課 佐藤さん、松浦さん）（正面の看板は、大正の大洪水で実際に浸水した高さを示している）

作室内の居住環境を整備しています。地域の方々に防災のご協力を得るためには必要な整備だと考えています。

現在、水路やポンプ場には水位計やカメラを設置しており、夜間やゲリラ豪雨時にも対応できるようにしています。今後は、ポンプ場の遠隔操作にも取り組みたいと考えています。

地域住民を交えた防災に関する活動について伺いました。

北島町の防災施策の特徴は、ハザードマップと連動したマイ・タイムライン作成の推進と、住民参加型の防災訓練です。

北島町のハザードマップには、浸水深や避難のタイミング、避難先などのマイ・タイムラインを記入できるスペースがあります。避難時の持ち物や服装なども一目で確認できるため、ハザードマップと避難計画を1つにまとめることができます。減災には事前準備が重要であり、防災出前講座等で周知を行っております。

防災訓練は「体験型」を重視し、参加者が実際に手を動かして学べる内容にしています。こうした取り組みは、防災を自分事として捉えるきっかけになります。参加者からは「実際

の災害を想定した対応を学べてよかった」という声も寄せられています。

例年、小中学校のいずれか1校を会場に関係機関と連携した訓練を実施しています。関係機関・協力団体等のご協力のもと、鍵ボックスの開け方、マンホールトイレの設置方法、煙テントハウスによる火災疑似体験など、数多くの実践的なプログラムを取り入れています。

今後も地域の皆さまと協力し、日常からの備えを積み重ねることで、北島町の防災力を着実に高めてまいります。



R6年 防災訓練の様子

### 北島町長メッセージ



北島町長 ふるかわ やすひろ 古川 保博

北島町は、古くから旧吉野川と今切川に抱かれるように位置し、川との深い結びつきのもとで発展してきました。吉野川水系がもたらす豊かな水資源は、農地整備や工業用水として活用され、本町の産業基盤を支え、人口の増加とともに町の成長を大きく後押ししてきました。

一方で、吉野川は豊かな恵みをもたらす反面、大雨や台風時には河川の増水や内水氾濫の危険性を高める存在でもあります。

近年、全国では線状降水帯による記録的な大雨災害が頻発しており、こうした気象変化は本町においても例外ではありません。水と共に発展してきた北島町は、同時に“水害と向き合い続ける町”でもあります。

このような状況を踏まえ、町民の皆さまの命と暮らしを守るため、水害対策をこれまで以上に計画的かつ積極的に推進してまいります。河川護岸の整備や排水機場の能力強化などのハード面に加え、ハザードマップの周知、防災訓練、出前講座などのソフト対策にも力を入れ、町全体で防災意識の向上を図っています。

今後も、吉野川水系と向き合いながら、その恵みを生かしつつ災害に強いまちづくりを進めていくため、自助・共助・公助が一体となった防災体制の強化に取り組んでまいります。関係機関との連携を深めながら、安心して暮らせる北島町の実現を目指してまいります。



北島町の災害や防災に関する情報は  
北島町公式ウェブサイトでご確認いただけます。



北島町の web 版ハザードマップなどの情報

「吉野川と共に～流域治水を担う～」第5回松茂町・北島町の取組はいかがでしたか？次回からも順次、吉野川流域市町村を取材し、流域治水や防災に関する取組をご紹介しますので、引き続きお楽しみください。

# 国土強靱化

NATIONAL RESILIENCE

強くて、しなやかなニッポンへ

防災・減災、国土強靱化のための  
5か年加速化対策等の工事進捗状況

～吉野川水系吉野川～

## 吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策

吉野川水系を管轄する徳島河川国道事務所においては、[時々の自然災害等の状況に即した機動的・弾力的な対応を行うための「頻発する風水害への対応」や「切迫する大規模地震等への対応」として「5か年加速化対策」等の工事を以下の地区で進めています。](#)

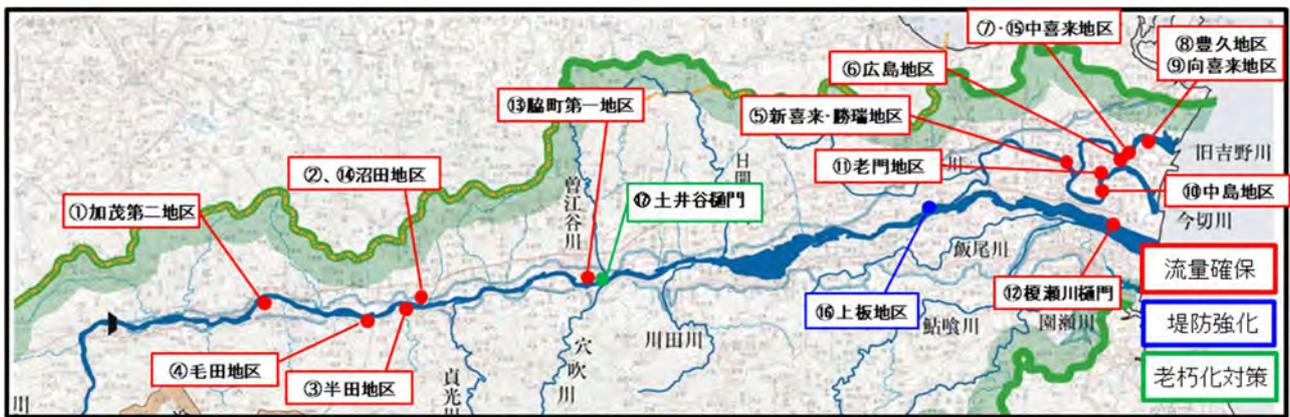


図1.吉野川水系における防災・減災、国土強靱化の緊急対策地区（※現時点で事業着手している箇所を表示）

### 事業目標及び状況（令和7年11月末時点）

#### ■流量確保（堤防整備、地震・津波対策、樋門新設・改築、河道掘削、樹木伐採）

- ①堤防整備
  - ・対策必要箇所22箇所のうち、令和7年度までに9箇所着手
  - ・11月末時点で9箇所着手し、現地調査、用地買収、築堤工事、樋門工事を実施中
- ②地震・津波対策
  - ・旧吉野川、今切川の対策必要箇所のうち、向喜来地区、中島地区、老門地区で耐震対策工事を実施中
- ③樋門新設・改築（耐震）
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
  - ・榎瀬川樋門は築堤が令和7年3月末に対策完了
- ④河道掘削
  - ・対策必要箇所10箇所のうち、令和7年度までに4箇所着手
  - ・11月末時点で4箇所着手し、沼田地区で河道掘削工事を実施中
  - ※掘削範囲の樹木伐採も含む

#### ■堤防強化（堤防拡幅、漏水・侵食対策、粘り強い堤防策）

- ①漏水対策
  - ・対策必要箇所2箇所（川島地区、西林地区）で漏水対策工事完了
- ②侵食対策
  - ・対策必要箇所5箇所のうち、令和7年度までに1箇所着手
  - ・11月末時点で1箇所着手済み

#### ■老朽化対策

- ①修繕
  - ・実施箇所4箇所のうち、令和6年度12月末時点で4箇所着手し、角ノ瀬排水機場では分解整備を実施中。土井谷樋門では閉鎖装置の更新を実施中。加賀須野地区では護岸修繕工事が令和7年2月末に完成しました。蛇池排水機場では分解整備が完了しました。



## 吉野川水系における工事進捗状況

前ページで紹介した対象地区のうち、令和7年11月末時点での主な地区の進捗状況は以下の通りです。(丸数字の番号は、図1(前ページ)の番号に対応)

### ●主な地区の施工状況(令和7年11月末時点)

No	地区名	所在地	整備内容	事業進捗
①	加茂第二地区	東みよし町	堤防整備	工事実施中(全体盛土量4.6kmのうち約84%進捗)
⑤	新喜来、勝瑞地区	鳴門市、北島町	堤防整備	関係機関協議中(事業延長約0.8kmのうち約95%進捗)
⑥	広島地区	松茂町	堤防整備	工事実施中(事業延長約2.0kmのうち約29%進捗)
⑦	中喜来地区	松茂町	堤防整備	工事実施中(事業延長約1.5kmのうち約22%進捗)
⑩	中島地区	徳島市	地震・津波対策	工事実施中
⑪	老門地区	北島町	地震・津波対策	工事実施中
⑭	沼田地区	美馬市	河道掘削	工事実施中(全体掘削量約728千m <sup>3</sup> のうち約32%進捗)
⑰	樋門開閉装置更新	美馬市	老朽化対策	工事実施中

#### ▶▶堤防が出来るまで



#### ▶▶地震・津波対策が出来るまで



### ▶堤防整備の進捗状況

- ① 加茂第二地区：用地買収、築堤・樋門工事／約84%の進捗



着手前



R7.11 月末時点

⑤新喜来・勝瑞地区：関係機関協議中／95%進捗



着手前



R7.11 月末時点

⑥広島地区：築堤、樋門工事／約 29%の進捗



着手前



R7.11 月末時点

⑦中喜来地区：築堤工事／約 22%の進捗



着手前



R7.11 月末時点

▶地震・津波対策における各地区の施工状況

⑩中島地区：耐震工事対策工事／工事実施中



着手前



R7.11 月末時点

⑪老門地区：耐震対策工事／**工事実施中**



着手前



R7.11 月末時点

▶河道掘削工事の進捗状況

⑭沼田地区：河道掘削工事／**約32%の進捗**



着手前



R7.11 月末時点

▶老朽化対策工事の進捗状況

⑰樋門開閉装置更新／**機器更新に向けて製造中**



着手前



機器更新イメージ



「Our よしのがわ」では、今後も定期的に国土強靱化に関する吉野川水系の工事進捗状況を発信していく予定です。また、徳島河川国道事務所のウェブサイトでは、全箇所を進捗状況を毎月更新しています。詳細はこちらでご覧いただく事ができます。

徳島河川国道事務所ウェブサイト

防災・減災国土強靱化のための5か年加速化対策等の工事進捗状況



# チルトローテータ（新技術建設機械）の現場見学会に参加しました

令和7年11月12日（水）、工事受注者の「令和7年度 加茂第二堤防護岸外工事」（受注者：（株）井上組）と「令和6-7年度 加茂第二堤防護岸（その6）外工事」（受注者：（有）高木建設）の工事現場にて、バックホウによる機械作業の効率化が期待できる『チルトローテータ』というアタッチメントの使用に関する現場見学会が開催されました。このような建設機械の高度化により作業効率が飛躍的に向上し、建設現場の省人化が進んでいくことが期待される取組です。

## 【チルトローテータとは】

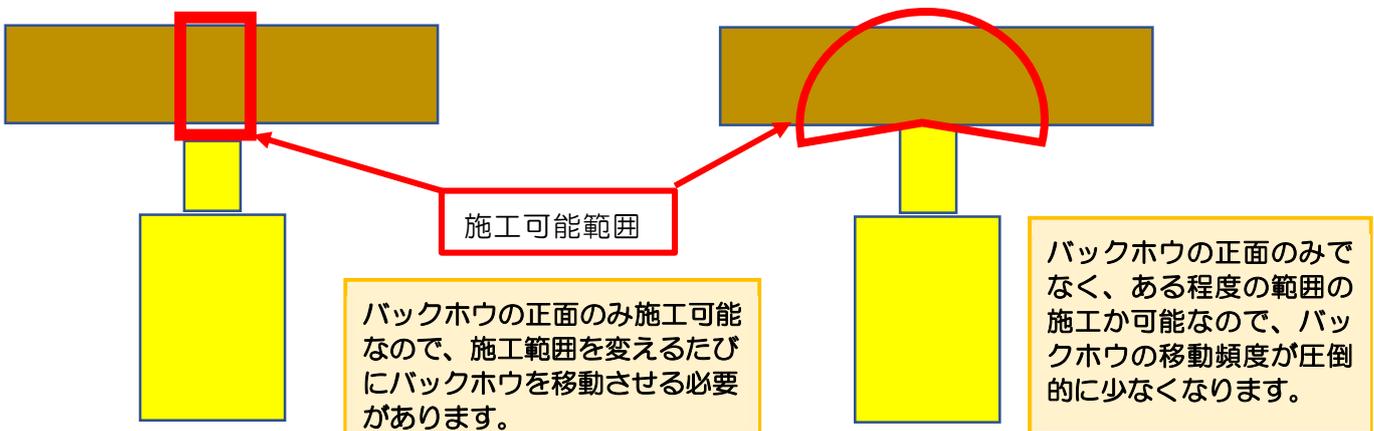
国土交通省が推進しているデジタル技術を積極的に活用し建設現場における省人化を推進する「i-Construction」という取り組みの一つで、バックホウのアームとバケットの間に取り付けるアタッチメントで、チルトローテータを取り付けることでバケットを左右に45°傾けられる（チルト）と同時に、360°旋回（ローテート）させることが可能になり、通常の場合より施工可能範囲が大きくなります。



バケットが回転し、傾きます

従来のバックホウのイメージ

チルトローテータを使用した場合のイメージ



施工可能範囲

バックホウの正面のみ施工可能なので、施工範囲を変えるたびにバックホウを移動させる必要があります。

バックホウの正面のみでなく、ある程度の範囲の施工が可能なので、バックホウの移動頻度が圧倒的に少なくなります。

## 吉野川津波対策工事完成式典～直轄10樋門～ を開催しました

平成22年度より工事を進めてきた吉野川の津波対策工事が完成しました。これを記念して令和7年11月24日（月・振休）に徳島市川内町の榎瀬川樋門にて「吉野川津波対策工事完成式典」～直轄10樋門～（主催：徳島県、徳島河川国道事務所）を開催しました。

当日は国会議員、徳島市長、藍住町長、吉野川市長、工事関係者、樋門操作人、地元関係団体など多数の方々にご出席いただき、津波対策工事の完成を祝いました。

今後も、気候変動によりますます脅威を増す洪水や南海トラフ地震に伴う津波から吉野川流域の安全を守るため、取り組みを続けてまいります。



榎瀬川樋門



阿波おどり（のんき連）



樋門操作室の説明



徳島河川国道事務所長  
事業概要説明



くす玉開披



【吉野川総合水系環境整備事業 事業再評価】

新規事業箇所である吉野川上流かわまちづくり、過年度からの継続箇所である早明浦ダム水辺整備と旧吉野川自然再生、完了箇所である三庄地区かわまちづくりと早明浦ダム水環境整備の計5件の箇所について、事業の必要性、事業進捗の見込みなどについて事務局から説明し、学識者の方々に審議をしていただきました。

審議の結果、新規事業箇所及び継続箇所については「事業継続する判断は妥当である」、完了箇所については「今後、改善措置等の必要性はない」との意見をいただきました。

【吉野川水系河川整備計画 進捗状況報告】

吉野川水系においては、今後概ね30年間で実施する河川整備の目標と内容についてまとめた吉野川水系河川整備計画を、平成21年8月28日に策定（平成29年12月20日に変更）し、これに基づき河川整備を進めております。

この度、河川に精通している学識経験を有する者から構成される「吉野川学識者会議」の委員による点検を行い、ご意見をいただきました。

- 開催日時：令和7年11月13日（木）  
9：00～12：00
- 開催方法：対面・WEB（ウェブ）会議併用
- 会議会場：徳島河川国道事務所 5階会議室
- 出席委員：12名（WEB参加含む）
- 一般傍聴：無し



吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属	氏名	専門分野	所属
泉 智揮	農業水利	愛媛大学大学院 准教授	田村 隆雄	治水計画（森林水文学）	徳島大学大学院 准教授
鎌田 磨人	生態系管理(生態学)	徳島大学大学院 教授	中野 晋	沿岸域工学・地盤工学 地震工学・防災対策(地震)	徳島大学 名誉教授・特命教授
河口 洋一	魚類学	新潟大学性産自然共生科学センター 教授	平井 松午	歴史地理学・歴史GIS	徳島大学 名誉教授
木下 覚	植物分類学	徳島県植物誌研究会 会長	松村 豊大	地域経済	徳島文理大学 教授
金原 祐樹	文化史・文化財	徳島県立図書館 課長補佐	武藤 裕則	洪水防衛（河川工学・水理学）	徳島大学 理工学部長
上月 康則	水環境 (環境工学・生態系工学)	徳島大学環境防災研究センター 教授	山中 英生	地域づくり	徳島大学社会産業理工学研究部 研究部長
柴折 史昭	鳥類	徳島希少鳥類研究会 事務局長	山中 亮一	水質(水環境)	徳島大学環境防災研究センター 准教授
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学人と地域共創センター 教授			

※鎌田 磨人委員、河口 洋一委員、武藤 裕則委員は、所用により欠席となりました。欠席された委員には事務局より事前に説明を行い意見を伺いました。



中野議長



泉 委員



木下委員



金原委員



上月委員



柴折委員



田中委員



田村委員



平井委員



松村委員



山中英雄委員



山中亮一委員

■今回主に実施した事業再評価及び点検の項目について

**吉野川総合水系環境整備事業 事業再評価**

【新規箇所評価】

＜水辺整備＞ ・吉野川上流かわまちづくり

【継続箇所評価】

＜水辺整備＞ ・早明浦ダム水辺整備

＜自然再生＞ ・旧吉野川自然再生

【完了箇所評価】

＜水辺整備＞ ・三庄地区かわまちづくり

＜水環境整備＞ ・早明浦ダム水環境整備

**吉野川水系河川整備計画 進捗状況報告**

・事業の進捗状況

●「吉野川総合水系環境整備事業 事業再評価」に関する委員からの主なご意見

○吉野川上流かわまちづくりについて、該当箇所の整備だけではなく、歴史・文化的な側面の記録を後世に伝えるものとしていただきたい。

○早明浦ダム水環境整備について、整備によって濁水の頻度が減ったと記載されているが、植栽等での森林環境の変化による影響など、様々な要素が考えられる。

○旧吉野川自然再生について、試験施工の段階でコウノトリが飛来している点は非常に期待できる。生物多様性を育むための実験フィールドとしても重要な箇所となるため、湿地管理等も計画にいられて進めていただきたい。

○CVM は、生物の多様性や環境保全の評価のように、存在しているものに対するの価値を測るという視点で使われており、利用する場合には色々な形で経済効果が出るため、経済効果の面も考慮した手法が望ましいと思われる。また、事業が完了しないと効果が発現しない計算になっており、事業途中の効果を算出する視点も必要だと感じた。

●「吉野川水系河川整備計画 進捗状況報告」に関する委員からの主なご意見

○堤防整備状況の図は毎年変わるものではあると思うが、どのように吉野川の堤防整備が行われてきたのかが分かる非常に重要な歴史資料であるため、これからもデータ等はしっかりと残していただければと思う。

学識者会議において、吉野川水系総合環境整備事業については、「今後事業継続とする判断は妥当である」との意見をいただきました。

また、事業再評価の結果について令和7年12月5日に開催された「令和7年度3回四国地方整備局事業評価監視委員会」において報告済みです。

【令和7年度 第1回 吉野川学識者会議】の会議資料は、徳島河川国道事務所のウェブサイトからダウンロードすることができます。



## つるぎ町防災フェアに出展しました！

11月29日（土）に貞光ゆうゆうパークのグラウンドで「つるぎ町防災ふれあいフェア」が開催されました。徳島河川国道事務所からは、河川の異常や不法投棄が行われていないかを確認するためのパトロールカーや、積雪時に動けなくなった自動車を救助するスノウプラウ（雪氷対応車）の展示、洪水時にどこまで水が来るのかをVR（Virtual Reality）で体験できるブース、防災に関するパネル展示を行いました。

当日は多くの方に来場いただき、洪水時の危険性やその対処法について、学びを深めてもらうことが出来ました。



## 地歴学会の先生方と吉野川の歴史に触れる1日

徳島県高等学校教育研究会 地歴学会の先生方が、吉野川の歴史について学びました！

講師は「別宮川三郎」こと徳島河川国道事務所の安永所長が務め、午前中は座学で吉野川の成り立ちや洪水の歴史を学習。午後は吉野川市にある善入寺島、石井町～国府町にある洪水遺跡を視察しました。

先生方は現地での説明に熱心に耳を傾け、印石が残る産神社（石井町）では、「印石の設置には測量をしたのですか」などの質問をしながら理解を深めていました。

吉野川と共に暮らしてきた先人たちの知恵や苦勞などの歴史に触れ、改めて地域の魅力を感じていただける1日となりました。





## 「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」関係者インタビュー【第3回】

令和7年5月、「吉野川上流かわまちづくり推進協議会」が始動しました。徳島河川国道事務所では、地元自治体や民間NPOと連携し、徳島県西部健康防災公園周辺で、川の魅力を活かしたまちづくりを進めています。本記事では、協議会を構成する関係者へのインタビューを通じて、活動に込めた想いや地域の魅力をご紹介します。

AMEMBO <sup>ふじかわ まさひと</sup> 藤川 雅仁 代表

### 地域への思い

私には、吉野川で遊んだ思い出がたくさんあります。しかし今の子どもたちは「川には近づかないように」と教えられており、川に親しむ機会がずいぶん少なくなっていると感じています。

就職のために徳島を離れ、長年県外で過ごしていましたが、帰省しても吉野川を利用することはなく、約30年間、吉野川との関わりがありませんでした。埼玉県<sup>ながとろ</sup>の長瀬川でカヤックを体験したことがきっかけとなり、定年退職後は徳島に戻り、安全な川遊びを子どもたちに提供することで地元<sup>ふじかわ</sup>に恩返しをしたいという思いから、2005年に「AMEMBO」を設立しました。

今では毎日のように吉野川に触れていますが、本当に水がきれいで、飽きることのない魅力的な川です。

現在 AMEMBO では、最大30人までのリバーカヤック体験を受け入れており、県内の学校の校外学習や、四国三郎の郷に宿泊される県外のお客様にもご利用いただいています。実際にカヤックや飛び込みを体験された方からは、「吉野川ってこんなにきれいなんですね」「川って遊べる場所なんですね」といった声をいただき、それが活動の励みになっています。

「徳島といえば吉野川」と全国の人に言ってもらえるよう、これからも AMEMBO を通じて吉野川の魅力を発信していきたいと思っています。



吉野川でカヤックを楽しむ  
藤川代表

### 協議会に期待すること

吉野川には、カヤックの全国大会を開催できるだけのポテンシャルがあります。また、マラソンコースが整備されれば、高校の陸上部などにも活用してもらえるのではないかと、以前から期待を抱いています。そのためには、宿泊施設の充実も欠かせません。施設が整えば、陸上に限らず、さまざまなスポーツ合宿の誘致にもつながると考えています。

さらに、本格的なキャンプができるエリアが整備されれば、地域の魅力をさらに高めることができるでしょう。

ソフト面では、環境学習などを通じて若い世代に吉野川やその周辺の自然環境に関心を持ってもらい、地域への愛着を育む取り組みができれば、将来的に徳島を元気にしてくれる後継者が育っていくのではないのでしょうか。

個人ではアイデアがあっても、なかなか実現が難しいことが多くあります。しかし、協議会という大きな組織ができたことで、私を含め、吉野川上流をより良くしたいという熱い思いを持つ人たちの声が共有され、ひとつでも形になっていけば嬉しく思います。

吉野川上流かわまちづくり  
推進協議会ウェブサイト



AMEMBO の詳細・リバーカヤックの  
ご予約は公式サイトよりご確認いた  
だけます



## 四国三郎の郷 松浦 有紀 施設長

## 地域への思い

転勤族の家庭に生まれ、県外で暮らした経験も多い私ですが、徳島での生活が一番だと感じています。愛媛に住んでいた頃、約1か月の断水や輸入米しか手に入らない経験をした際に、吉野川のありがたみを痛感しました。水が豊かで、お米も野菜もおいしい、徳島は本当に恵まれた土地です。

四国三郎の郷利用者の7割は県外からのお客様です。施設の良さを気に入って、何度もリピートしてくださる方も多くいらっしゃいますが、私は、にし阿波の事も好きになっていただきたいという思いから、三好ジオパークや藍の歴史、「四国の灘」といわれる酒どころ池田などの事を積極的に発信しています。

また、都会の人にとっては、吉野川を眺めながら歩くだけでも非日常的で魅力的な体験ができます。歩くことでしか出会えないお店や景色もあるため、周辺の散策をお勧めすると、お客様から散策で見つけたお店で買ったお土産をいただき、地域の魅力を逆に教えていただくこともあります。

四国三郎の郷でキャンプに出会い、お客様との交流を通して、にし阿波や吉野川のことがさらに好きになりました。私の中の「吉野川ってすごい」という思いを、これからも多くの方にお伝えしていきたいと思っています。



四国三郎の郷センターハウス前にて  
松浦施設長

## 協議会に期待すること

私の目標は、にし阿波や吉野川をもっと身近に感じてもらえる場所を増やし、少人数でも毎日来客がある環境を整えることで、継続的に交流人口を増やすことが地域活性化には欠かせないと思っています。また、子どもたちが川での思い出を残せるようなイベントを増やしたいとも思っています。しかし、こうした活動は一人では広がりません。地元の人と一緒に取り組むことが不可欠です。

そのためには、まず地元の人が地域の魅力を知ることが重要です。なぜ吉野川が池田で大きく曲がるのか、なぜ「四国三郎」と呼ばれるのか、といった吉野川の歴史を語る人はほとんどいません。知れば地元への誇りや愛着が生まれ、発信したくなるはずです。協議会には、こうした知識を学べる勉強会を開催してほしいと期待しています。

「かわまちづくり」は、河川整備で住民の命と財産を守りながら、地域を盛り上げることができ素晴らしい仕組みです。私は仕事柄、にし阿波周辺に関する意見を伺う機会が多くあります。その声を協議会で共有し、よりよい計画づくりに貢献したいと思っています。吉野川とともに歩む地域の未来を、もっと豊かにしていきたい。それが私の願いです。

四国三郎の郷の詳細・ご予約等は公式サイト  
よりご確認ください



令和7年度 第3回吉野川現地（フィールド）講座 吉野川歴史探訪

# 吉野川上流の歴史を学ぼう！を開催します

令和8年3月1日（日）に、令和7年度 第3回吉野川現地（フィールド）講座 吉野川歴史探訪「吉野川上流の歴史を学ぼう！」を開催します。

国交省職員とともに史跡を辿りながら吉野川の歴史について知ってもらい、バス移動での「歴史探訪」です。ご興味のある方はぜひご参加ください。

- 開催日時：令和8年3月1日（日）  
12：30～15：30  
（受付 12：00～）・小雨決行
- 集合場所：水辺の学校中島川公園  
（美馬市美馬町中島地先）
- 探訪場所：美馬市美馬町～美馬市脇町周辺  
（探訪ルート詳細はチラシに記載）
- 募集人数：20名（20名を超える場合は抽選）
- 募集期間：令和8年2月24日（火）※必着
- 主催：国土交通省 四国地方整備局 徳島河川  
国道事務所/共催：吉野川交流推進会議

詳しくは、徳島河川国道事務所のホームページをご覧ください→<https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima>

令和7年度 第3回吉野川現地（フィールド）講座 吉野川歴史探訪

## 吉野川上流の歴史を学ぼう！

＜イベントの概要＞  
かつて藤原山と呼ばれていた吉野川。吉野川流域に暮らす人々は、春日より迎撃を繰り返す川と闘い、川とともに生活しようとしてきました。昔は、私たちが知らないように暮らしていた吉野川流域には、そんな吉野川の歴史を物語る遺跡が、今でも数多く残されています。国交省職員とともに史跡を辿りながら、吉野川の歴史について知ってもらおうのが「吉野川歴史探訪」です。

**実施日時** 3月1日（日）  
12時30分～15時30分  
（受付：12時00分～）・小雨決行

**実施内容**

- 集合場所：水辺の学校中島川公園（トックラン）  
美馬市美馬町中島地先
- 探訪場所：美馬市美馬町～美馬市脇町周辺  
※探訪ルートは下記参照  
※バスでの移動となります（トイレ休憩あり）
- 募集人員：20名（20名を超える場合は抽選させていただきます）
- 募集期間：令和8年2月24日（火）（必着）

**探訪ルート**

主催：国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所 / 共催：吉野川交流推進会議

### ◆◆◆お申込みについて◆◆◆

右の二次元コードの応募フォームより、必要事項を入力して送信してください。



【メールの場合】

必要事項【氏名・年齢・住所・連絡先（電話番号・メールアドレス）】  
を明記の上、skr-tokusa60@mlit.go.jp までメールをお送りください。

【郵送の場合】

〒770-8554 徳島市上吉野町3丁目 35  
国土交通省 徳島河川国道事務所 流域治水課  
「令和7年度 第3回吉野川現地（フィールド）講座」係



※募集間終了後、お申込者全員に開催の有無・参加の可否などについてご連絡します。

アソビバ  
遊 VIVA!  
吉野川

水運の拠点・宿場町として栄えた辻地区で  
歴史と新たな文化を学ぶ！



「ここがええですよ！吉野川」「吉野川Diary」の取材で訪れた、井川町辻地区での本編で紹介しきれなかったガイドの皆さんの様子や取材風景をお届けします！



ガイドをしてくださった皆さん。元は役場の職員や小学校教師をされていた方がほとんど。それぞれに得意分野を活かしたガイドをしてくださいました。



手作りの資料にも  
地元愛を感じます♡



かつての辻の  
経済を支えた  
タバコの葉



お茶の飲み比べに挑戦する  
バットさん

辻地区がかつて経済の中心を担って  
いたことを物語る建物



歴史ある勇楼旅館の前で。宿場町としてにぎわっていた頃のお話を伺いました。



旧四国銀行辻支店店舗  
木造が主流だった時代に鉄筋コンクリートで造られた店舗



吉野川を眺めながら船が主な交通手段だった頃のお話を伺いました。



茜染めの色のサンプル  
どれも素敵な色♡



茜染めは温度が命！染めているようには見えませんが真剣に染めているところです



出来上がったハンカチ。それぞれイメージした色に仕上がりが大満足

早明浦ダム直下・れいほく地域で開催！四県の交流イベント

11月16日（日）高知県土佐町の早明浦ダム直下ふれあい広場で「第38回やまびこカーニバル」が開催され、土佐町や嶺北エリアのグルメのほか、よさこい鳴子踊り・阿波踊りなどがステージで披露され、夜は花火大会で盛り上がりました。

そして今年は吉野川総合開発50周年という節目を迎えたことから、同会場で四国四県や国土交通省、水資源機構が協力し、『吉野川総合開発50周年交流イベント』を開催しました。

テーマは「水の恵み」。パネル展示やクイズラリーでは、日本三大暴れ川に関するちょっと意地悪な問題も登場し、子どもたちも夢中になって挑戦！正解すると、吉野川の水を利用した企業からのプレゼントもあり、家族連れで大盛り上がりでした。さらにVR（Virtual Reality）で「吉野川を空から見る」体験も大好評。

楽しみながら森と水でつながる四国の絆を感じた、笑顔いっぱいの日となりました。



“もしも”に備える力を育む 加茂小で防災出前授業

11月26日（水）、徳島県は東みよし町立加茂小学校の5年生33人を対象に、出前授業を実施しました。児童たちは、県職員から水害の恐ろしさや日頃の備えの大切さについて説明を受けた後、自分たちが暮らす地域のハザードマップを確認しました。

さらに、VRゴーグルを使って水害を疑似体験できる映像を視聴するなど、さまざまな体験を通して防災について学びました。

現在、加茂小学校が立地する加茂第二地区をはじめとした岩津上流域では、堤防整備が進められています。（関連記事 P16）しかし、近年は毎年のように大雨による大規模な水害が全国各地で発生しています。被害を少しでも減らすためには、防災学習を通して地域住民一人ひとりが防災意識を高めることが欠かせません。

徳島河川国道事務所も、過去の浸水被害の写真等、資料提供などを通じてこうした取り組みを支援しています。



### 川の駅にサンタがやってくる

徳島市のクリスマス恒例イベントとなった「川の駅にサンタがやってくる」が、12月24日・25日の2日間にわたり開催されました。クルーズ船に乗ったサンタたちは、午後6時に新町川・阿波製紙水際公園ボートハウス前棧橋を出発し、川の駅として整備された各ポイントを巡りながら、子どもたちにプレゼントを届けました。



### 徳島の土木遺産を映像で紹介！

「徳島の土木遺産」YouTubeチャンネルでは、徳島県内に残る歴史的価値の高い橋梁やダムなど、地域の暮らしを支えてきた社会インフラを映像で丁寧に紹介しています。長安ロダムや加賀須野橋、吉野川橋といった、技術的にも文化的にも意義深い施設をわかりやすい解説とともに楽しめる内容となっています。

これらの映像は公益財団法人徳島県建設技術センターが制作しており、未来の世代に伝えたい土木技術の魅力を身近に感じられます。地域の歴史や土木の面白さを再発見できるチャンネルです。

「徳島の土木遺産」チャンネルはこちらからご覧いただけます👉



### とくしまちなか花ロード project 花植え会

令和8年1月17日（土）に、第35回とくしまちなか花ロードProject「花植え会」が開催されました。徳島河川国道事務所からも親子連れを含む有志が参加し、1月にしてはあたたかな日差しのもと、多くのボランティアの方々とともに、徳島駅前周辺の一般国道192号沿いにパンジーなどの苗を植えました。



# 吉野川 Diary

～「ここがええでよ！吉野川」こぼれ話～

## 貴重な三好市の日本茜で茜染め体験 鮮やかな色に魅せられる！

三好市に自生している日本茜で地域を活性化をしようと2021年から活動をしているのが『茜の杜』です。「ここがええでよ！吉野川」に登場した辻町ガイドの会のメンバーの多くが所属しています。

日本茜の根の部分は日本古来の赤色染料として用いられ、奈良の正倉院にも染織品が収蔵されていますが、現在は原料の入手が難しく「幻の染料」とも呼ばれていました。その貴重な日本茜が三好市内の山野に自生していることが分かり、茜の杜では自生地<sup>あかね もり</sup>の調査や栽培に取り組み、今では茜染め製品づくりやワークショップの開催ができるようになりました。

日本茜は赤と黄の色素を持ち、組み合わせや染め回数等によりピンク・オレンジ・黄色・薄紫色など様々な色に染められます。茜染め体験では、ピンクとオレンジの2色の淡い色から濃い色まで9種類の染液から好みの色を選び、パイル地のハンカチ染めをしました。ピンクとオレンジを調合してサーモン色を創出するなど、染液の配合により多様な色調を生み出せるのも魅力で、生まれてくる色を想像しながらの染色に心躍ります。

前川 順子会長は「自然の力と色の魅力を感じています。徳島県西部の色として知られ、特産品として地域活性化に繋がって欲しいです。」と話してくれました。



茜染め体験を準備して下さった『茜の杜』のみなさんとバットさん。バットさんはインドの神聖な色でもあるオレンジ色に染めました。



温かみのある色が魅力の茜染め。ハンカチや、ストールも染められます。ピンク系、オレンジ系といっても染液により組み合わせは無数です。全く同じ色にならないのも魅力です。

- ・体験は5人～15人まで対応可能
- ・要予約（2週間前までに予約）
- ・問合せ：茜の杜 090-3184-1023

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。

今年は1月6日に島根県で震度5弱の地震があり、2024年には1月1日に能登半島地震、1995年には1月17日に阪神大震災がありました。

地震と季節に因果関係が有るか否かはわかりませんが冬場は特に防災対応にご留意いただくとともに、今年は災害の無い年になりますようお祈りいたします。(K)

【発刊】：国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

【編集】：Ourよしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL(088)654-9611(直通)

FAX(088)654-9613

E-mail:skr-tokusa60@mlit.go.jp

ウェブサイトアドレス <https://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>

(注記)QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。



## Ourよしのがわ 編集委員会

- |        |        |
|--------|--------|
| ・相田 晴美 | ・西川 恭久 |
| ・梶本 泰司 | ・森田 達之 |
| ・林田 拓都 | ・住岡 久雄 |
| ・寺尾 尚浩 | ・加宮 正彦 |